

ボックスカルバートと橋台間の補強土の被害状況

調査対象地点は、橋台と既存道路を斜めに交差するボックスカルバートの間に設置された高さ約7mの補強盛土である。ボックスカルバートが補強盛土による新設の道路と斜めに交差するため、補強盛土の延長は、盛土の左右で大きく異なっている。

写真-1、2に、補強盛土側面から見た状況を示す。外観上特に大きな損傷は見られない。

写真-3は、橋台ウイング部と補強盛土（短尺側）との境界部分の状況である。地上部から盛土天端まで、ほぼ一様に幅10cm程度の隙間が発生していた。隙間には、隙間発生後に天端等から盛土材の一部が雨水等で流れ込んだと思われる状況も認められた。剛な構造の橋台と柔な構造を持つ補強盛土の地震時挙動の差や地震時の慣性力で盛土が外側に発生した変形量がそのまま隙間として残留したものと考えられる。写真-4は、盛土天端の状況である。クラックが発生し、盛土が外側に变形した影響が見られた。

なお、最後に、調査地点の隣接地山では写真-5に示すような崩壊が発生していた。

(文責：高橋 真一)

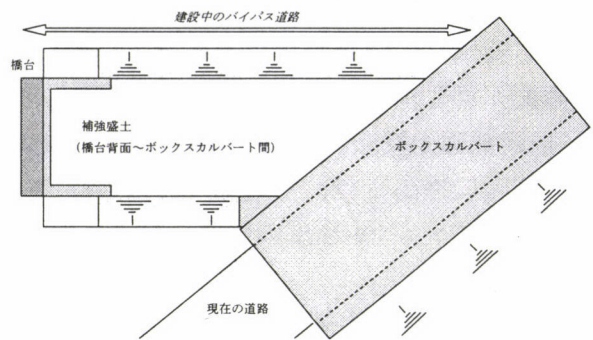


図-1 補強盛土の位置関係

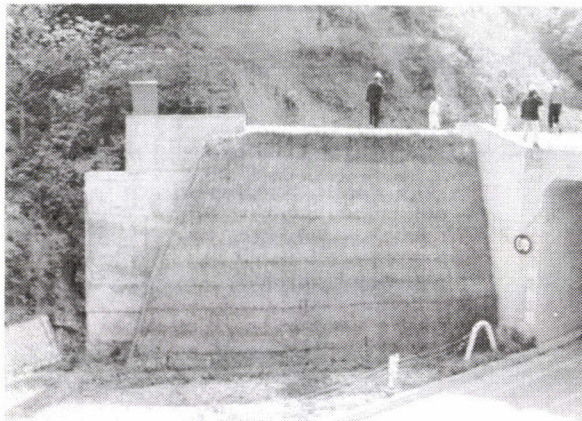


写真-1 補強盛土側面(1)

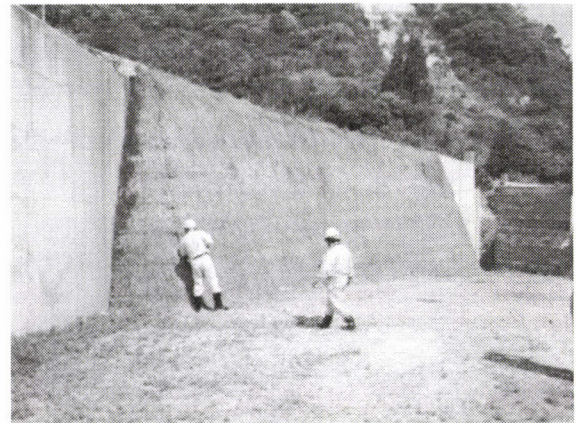


写真-2 補強盛土側面(2)



写真-3 橋台との間のすきま



写真-4 補強盛土天端)



写真-5 補強土崩壊状況